

運営状況の開示について

社会福祉法人友隣会の平成29年度における業務及び財産に関する報告を下記の通り掲載いたします。

○平成27年度事業報告

法人所在地	宮崎県東臼杵郡門川町庵川西6丁目60番地
名称	社会福祉法人 友隣会
代表者	理事長 吉田 博之(平成29年6月21日再任)

社会福祉法人 友隣会

◆平成29年度事業報告◆

□法人事業推進状況

1. 良質かつ適切なサービスの提供

より良いサービスの提供に努め内部研修をはじめ、県社協等の開催する外部研修にも積極的に参加し、専門性を身につけ、適切なサービスの提供と発展を目指し取り組んだ。常に利用者やご家族の声をしっかりと受け止め、関係機関との連携等により丁寧に対応することで適切なサービスの提供に努めた。

2. 地域における公益的な取り組み

日向市・東臼杵郡障がい者自立支援協議会委員として、地域課題に主体的にかかわりながら、多様な関係機関との連携を図った。また、門川町生活支援品支給事業（フードバンク等事業）に参加し、支援が必要な方への支援品の給付を行った。

3. コンプライアンス（法令遵守）の徹底

常に関係法令や法人の諸規定を遵守し、適切なサービスの提供、事業運営に努めた。法人全体での職員研修として、障害者虐待防止についての県の研修の伝達研修を実施し、支援者としての人間力向上や法人理念の実践にむけた意識の醸成を図った。

4. 人材育成と働きやすい職場づくり

サービスの質を担保するため、必要な人材の確保及び育成に取り組んだ。悠々工房支援員については1名増員して採用することで職員の業務負担の軽減につながった。職員の資質向上に向けては、各種協議会や研修会に積極的に参加を促すと共に、資格取得を目指した取り組みを奨励した。

5. 法人組織統治（ガバナンス）の確立

理事会・評議員会・監事など、法人組織については、関係法令に基づき各々の役割を果たしながら、適切な法人経営、事業運営を目指し取り組みを行った。

平成29年度理事会・評議員会の開催について

- ・開催実績 理事会4回 ／ 評議員会3回

第1回理事会

日 時 平成29年6月2日（金）午後1時30分

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

理事会審議事項

- ・第1号議案 平成28年度 事業報告書（案）について
- ・第2号議案 平成28年度 決算報告書（案）について
(監事監査報告)
- ・第3号議案 社会福祉充実計画について
- ・第4号議案 平成29年度第1次補正予算（案）及び積立金取崩しについて
- ・第5号議案 新役員の推薦（案）について
- ・第6号議案 役員並びに評議員の報酬等に関する規程について
- ・第7号議案 定時評議員会の招集事項について

その他報告事項

第1回評議員会

日 時 平成29年6月20日（金）午後7時

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

評議員会審議事項

- ・第1号議案 平成28年度 事業報告書（案）について
- ・第2号議案 社会福祉充実計画について
- ・第3号議案 平成29年度第1次補正予算（案）及び積立金取崩しについて
- ・第4号議案 理事及び監事の選任について
- ・第5号議案 理事及び監事の報酬について
- ・第6号議案 理事及び監事並びに評議員に対する報酬の支給の基準について

第2回理事会

日 時 平成29年6月21日（水）午後1時30分

場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール

理事会審議事項

- ・第1号議案 理事長の選定について
- ・第2号議案 業務執行理事の選定について

第3回理事会

日 時 平成29年7月21日（金）午後6時40分
場 所 とんぼ（門川町西栄町）
理事会審議事項
・議案 評議員会の招集事項について

第2回評議員会

日 時 平成29年7月21日（金）午後7時
場 所 とんぼ（門川町西栄町）
評議員会審議事項
・議案 社会福祉充実計画の変更について

第4回理事会

日 時 平成30年3月20日（火）午後3時
場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール
理事会審議事項
・第1号議案 平成29年度補正予算（案）について
・第2号議案 平成30年度事業計画書（案）について
・第3号議案 平成30年度予算（案）について
・第4号議案 評議員会の招集事項について

第3回評議員会

日 時 平成30年3月29日（木）午後7時
場 所 ワークセンター悠々工房 食堂ホール
評議員会審議事項
・第1号議案 平成29年度 補正予算（案）について
・第2号議案 平成30年度 事業計画（案）について
・第3号議案 平成30年度 予算（案）について

障害福祉サービス

1. ワークセンター悠々工房 就労移行支援等事業報告書

障がい等の理由により一般就労が困難な方や、これから一般就労を目指したいという方に對し、個々に合わせた働き方を支援し、働くことでの地域貢献や社会参加を目指し取り組んだ。また、地域行事活動や販売、余暇的な活動など、生産活動以外の様々な活動を幅広く経験することにより、社会の一員としての自覚を促しながら、社会性の向上を目指した取り組みを行った。社会福祉充実計画に沿って、全室の空調機更新を行い室内環境を整えることができた。

生産活動では、収入は昨年並みとなったが、新規作業としてトマト作業、ヘべす作業、門川

社協デイルーム清掃等と拡大し、工賃の向上を目指した。一方、アルミの価格が回復し、前年比較15%増収となったが、回収全体量は10%減量と振るわず、課題を残す結果となった。除草作業中の職員の労働災害については、刈払機使用のマニュアルの作成や外部講習会への参加など職員全体での取り組みを促し、再発防止に向けての取り組みを行った。

一般就労に向けての職場体験実習では、希望者全員が職場体験実習を行い、課題の抽出や経験を重ねることにつながった。新規の実習協力事業所も増えたが、平成19年度以降、初めて一般就労者を輩出することができなかつた点においては、今後の課題として取り組みを強化していきたい。利用者の増減については、欠席が長期にわたっていた利用者の利用継続ができなかつたことや入院から入所施設への移行、体力や身体機能の低下により介護事業所への利用変更など、4名の退所者があり、年度末近くになって就労継続支援事業B型1名と就労移行支援事業2名の新規利用者を迎えるが訓練等給付費の状況としては、前年対比94%となった。

次年度は、個々の挑戦を促しながら、生産活動の更なる活性化、就労支援の強化により、実績を重ねることができるように取り組みを行っていく。以下、各事業について報告する。

(1) 就労継続支援事業B型

1. 個別支援の充実と信頼関係の構築

利用者からの聞き取りや個別面談を丁寧に行い、目標設定に向けての思いや希望が実現できるよう個別支援計画の策定を行った。6ヶ月以内に行うモニタリングにおいては、ご家族を含め、目標の達成度や本人の頑張りについて分かりやすく説明し、支援の実際について情報提供を行うことで、信頼関係の構築を図った。

2. 出勤日数が少ない方への働きかけ

毎日通所できない方については、心身の状況確認や意欲の向上を促しながら丁寧な働きかけを行い、希望に沿った作業日課の工夫等により出勤日数を増やすことができた。

3. 新規委託作業等により作業量を確保

トマトやヘべス、お茶を取り扱う作業や門川社協デイルームの清掃等の新規作業を取り入れ、進め方の工夫や個々の作業スキルの向上、正確な作業遂行により委託先のニーズに対応することができた。除草作業等の委託作業が重なるシーズンの室内作業種が増えたことで、室内外のバランスを取りながら作業をすすめることができた。

4. 実績に応じた工賃の向上と働く意欲づけ

工賃の算定根拠を個別に分かりやすく示したことや、施設外作業での手当の上乗せ、また販売活動を通じた手当など、実績に応じて工賃の向上につながり、これまで以上に働くことへの意欲の向上につながった。

5. 一般就労希望者への求職活動の継続

学習会への参加や職場体験実習など、一般就労を見据えた就労支援や求職活動を継続し、

職場での適応力や社会性を身につけるための支援を継続して行った。

6. 地域等とのつながりを支援

福祉的な行事への参加や移動販売等の販売活動、また地域での障がい者のスポーツレクリエーション等に積極的に参加し、地域の方々との交流を促しながら、自らが他者と関わりを持って活動できる機会を提供した。

(2) 就労移行支援事業

1. 個別支援の充実と信頼関係の構築

利用者からの聞き取りや個別面談を丁寧に行い、目標設定に向けての思いや希望が実現できるよう個別支援計画の策定を行った。3ヶ月以内に行うモニタリングにおいては、ご家族を含め、目標の達成度や本人の頑張りについて分かりやすく説明し、支援の実際について情報提供を行うことで、信頼関係の構築を図った。

2. 希望者全員の実習と新規実習先の開拓

これまで実績のあった協力事業所については、引き続き良好な関係を築き協力を得ながら、新規での実習協力事業所を開拓し、新規6事業所から協力を得る事ができた。

3. 学習内容や訓練の充実

利用者の学習したい内容のニーズ調査や聞き取りを実施し、分かりやすい文字やイラストでのパネル表示や理解度に合わせた個別学習等、学習内容の充実を図った。実習先までの通勤の自立訓練やハローワークまでの移動など、公共交通機関を使った移動ができるよう訓練に取り組んだ。

4. 障がい特性に配慮した支援

利用者個々の障がい特性の深い理解と、一人ひとりに合わせた分かりやすい支援により、利用者の思いや希望を丁寧に聞き取りながら、就労支援を行った。定着支援においては、相談支援機関と本人家族間での問題が発生したケースもあったが、専門知識やこれまでのネットワークを活用し本人や家族の希望する次のステージへの支援を行うことができた。

5. 就労支援についての知識や支援技術の向上

宮崎県障害者職業センターの実施する就労支援基礎研修への参加をはじめ、ひゅうが障害者就業・生活支援センター開催の就労支援会議への参加等、社会資源やネットワークを活用した体制作りをはじめ、就労支援についての知識や支援技術の向上を図った。

□ 施設整備等の状況

施設・備品の整備	スポットエアコン 132, 840円（リサイクル作業用） 空調機8台 4, 849, 200円（全室空調機更新）
----------	---

□ 生産活動各科実施内容

- ①食品加工科（ひむかのすり身・すり身天・給食用すり身ボール等の製造販売など）
- ②工作リサイクル科（アルミ缶リサイクル 園芸作業 木工小物製作など）
- ③OA科（資料作成 年賀状印刷 名刺・はがき・封筒などの軽印刷 トマト・ヘベすに 関する委託作業など）
- ④その他（福祉センター管理 門川社協デイルーム清掃 除草作業等 ビー玉作業 お茶 作業 その他販売品…せんべい、干物類、そうめん、ラーメン、布小物など）

□行事関係

①販売行事参加実績

参加行事	月 日	場 所	参加利用者	参加職員
延岡大師祭り	4／3	延岡栄町サンロード	2 (人)	1 (人)
延岡イオン歩一歩	5／23	イオン延岡店	2	1
門前市バザー	6／21	延岡栄町サンロード	1	1
門川町福祉推進大会	7／2	門川町総合文化会館	3	1
延岡イオン歩一歩	8／21	イオン延岡店	2	1
しおみの里ふれあい祭り	10／1	しおみの里（日向）	3	1
門前市バザー	10／11	延岡栄町サンロード	2	1
郡スポーツレク	10／13	諸塙村民体育館	全員	9
百歳体操交流会	10／17	クリエイティブセンター	2	1
ふれあいスマイルフェスタ	11／11	キヤッチボール（門川）	2	1
延岡しろやまフェスティバル	11／18	延岡しろやま支援学校	2	1
ひむか祭	11／19	日向ひまわり支援学校	2	1
門川町福祉ふれあい祭り	11／26	門川町総合福祉センター	全員・家族会	全員
つながれ！かどがわ	12／2	クリエイティブセンター	2	1
日向市ふれあいフェスタ	12／3	日向市文化交流センター	7	3
やっちゃんばい門川	1／28	クリエイティブセンター	3	2
日向市福祉のつどい	2／14	日向市文化交流センター	5	3
心の健康講座	2／23	日向市中央公民館	2	1
ひな山まつり	2／28	三ヶ瀬集落センター	2	1
〃	3／1	〃	2	1
〃	2	〃	2	1
〃	3	〃	2	1

○その他移動販売 4月—4回 5月—6回 6月—5回 7月—4回 8月—3回

9月—3回 10月—2回 12月—1回 1月—3回 2月—2回

3月—4回

○民生児童委員定例会にて販売—3回

②社会参加、その他行事参加実績

社会参加・その他の行事等	月 日	内 容 ・ 場 所 等
ナイスハートふれあいスポーツ広場	4／17	延岡市民体育館
地域奉仕作業 (年2回)	4／28・11／10	庵川漁協、公民館周辺の清掃作業
宮崎県障害者スポーツ大会	5／11	宮崎県総合運動公園
歯の衛生指導	6／14	歯科衛生士・保健師来所による指導
家族会総会	6／24	悠々工房食堂にて
避難訓練 (7.11.3月 年3回)	7／11	門川社協との合同避難訓練 消火訓練
利用者健康診断	8月～	嘱託医 森迫胃腸科内科にて年1回
視察研修一泊旅行 (鹿児島方面へ)	9／21・22	<都城どりーむわーくす視察 まほろばの里 いおワールド 霧島国際ホテル宿泊 仙巒園 しょうぶ学園見学 他>
県北地区障害者合同面談会	10／12	延岡文化センター 希望者5名参加
東臼杵郡スポーツレクレーション大会	10／13	諸塙村立体育館
門川町福祉ふれあいまつり	11／26	施設販売、家族会フリーマーケット
企業見学会	11／20	日向給食センター見学 利用者2名 職員1名参加
門川町障がい者スポーツ教室	11／22	クリエイティブセンター
福祉サービス事業所合同説明会	12／14	延岡しろやま支援学校にて事業説明
ふれあい餅つき交流会	12／19	ふれあい地球館にて利用者6名 職員2名参加
テーブルマナー教室	2／14	ホテルベルフォート日向
ふれあいタイム (年6回)	5,7,8,12,1,3月	5/28 ドライブ 7/29 ふれあいシアター 8/27 スイカ割りなど 12/20 クリスマス会 1/27 お正月遊び 3/24 カラオケ交流

□施設外作業、請負、委託作業等状況

- ①森迫胃腸科内科 駐車場清掃、プランター花の管理
- ②サンハイツ 駐車場内除草、清掃作業
- ③小規模多機能ホームこばる 除草作業等
- ④森農園 トマトパックシール・シート貼り、梱包材カット作業
- ⑤門川社協 門川町総合福祉センター周辺除草、門川社協デイルーム清掃作業等
- ⑥グーファーム トマトの選別、箱詰め作業、除草作業
- ⑦松野工業 ビー玉分別、パッケージング作業
- ⑧熊野農園 ヘベスの皮むき、搾汁作業
- ⑨鹿島園 お茶パック分別作業

□実習、視察見学等受け入れ等状況

- ①五十鈴小学校 6年生福祉体験学習 41名
- ②延岡しろやま支援学校高等部実習 6月3名 / 9, 10月3名 / 1月2名 / 1月10名
- ③延岡しろやま支援学校中学部職場体験 1月7名
- ④日向ひまわり支援学校保護者視察 4名
- ⑤鮫島病院デイケアより視察 8月4名 / 12月2名
- ⑥綾町育成会より視察研修 18名
- ⑦延岡しろやま支援学校中学部教職員視察 3名
- ⑧どりーむわーくす視察研修 40名

□実習協力事業所

- ①中里造園
- ②(株)大久保商店
- ③(株)陽(あかり)
- ④門川町社会福祉協議会
- ⑤ナフコ延岡店
- ⑥NPO法人 あったかホーム愛あい
- ⑦NZファーム
- ⑧いけとも農園
- ⑨ファミリーマート延岡トロロ店

□就労実績

就労者 なし

(3) 日中一時支援事業

□事業推進状況

今期の利用は支援学校の夏休みを利用した体験的な利用の1名の受け入れを行った。延岡しろやま支援学校高等部からの利用となつたが、将来を考えて進路決定のための体験を希望された。相談支援事業所から紹介を受けての利用であったため、今後も相談支援事業所や支援学校との情報共有を行いながら、必要時の日中活動の受け入れを行っていく。

■ワークセンター悠々工房事業運営状況

(平成30年3月31日現在)

- ① 職員体制 計11名 管理者 1名
 サービス管理責任者（兼務） 1名
 就労支援員 1名
 生活支援員 2名
 職業指導員 3名
 生産活動補助職員 1名
 事務員 1名 事務補助員 1名
 調理員 1名

② 利用者の状況

- | | | | | | |
|-----|-----|------------|----|-------------|-----|
| 定 員 | 25名 | (就労移行支援事業) | 6名 | 就労継続支援事業 B型 | 19名 |
| 現 員 | 27名 | (就労移行支援事業) | 4名 | 就労継続支援事業 B型 | 23名 |

③ 利用者分類等

(1) 性別、年代別分類

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男	2	6	5	2	2	3	20
女	1	3	1	1	1	0	7
計	3	9	6	3	3	3	27

(2) 事業、年代別分類

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
就労移行支援事業	2	1	1	0	0	0	4
就労継続支援 B型	1	8	5	3	3	3	23
計	3	9	6	3	3	3	27

(3) 在住市町村区分

市町村	門川町	日向市	延岡市	計
利用者数	15	7	5	27

(4) 障がい分類 ①身体障がい者（重複） ②知的・精神

身体		重複			
1級	2	知的		精神	
2級	4	A	1	1級	
3級	0	B-1	1	2級	1
6級	0	B-2		3級	
7級	0				
計	6	計	2	計	1

知的		精神	
A	1	1級	1
B-1	12	2級	2
B-2	5	3級	
計	18	計	3

2. ヘルパーステーション悠ライフ事業報告書

□ 悠ライフ 事業推進状況

介護保険対象の老人居宅介護事業として、訪問介護事業を中心事業として、訪問型サービスを含めた在宅高齢者の身体介護や生活全般にわたり訪問支援を行った。生活支援や介護予防を包括的に体制整備していく地域包括ケアシステムへの過渡期となり、行政の行う説明会等への参加や、各市町村の指導を受けながら、制度移行への対応を行った。障がい者支援となる居宅介護事業・同行援護事業については、利用頻度が増えた方もあり、通院の同行や外出支援が多くなったため、受診先や家族、日中活動等の福祉サービス事業所との連携を図りながら安心・安全なサービスの提供に努めた。各事業において職員間の連携と情報の共有が重要となるため、月1回定期的に行っているミーティングでは、サービス提供責任者を中心にケース検討や支援の実際について確認を行い、より良いサービスの提供につなげた。特に、記録の重要性についての研修を重ね、細かな居室内的変化や表情、利用者の興味のあることや話される内容等、できるだけ記録に残すように努めた。その結果、体調の変化等を早期に発見することができ、早目の受診等によりご家族の信頼にもつながっている。悠ライフ拠点区分においては、サービス活動収益が前年度比較102%と微増ながら安定収入を得ることができ、拠点区分間の繰り入れに資することができた。ただ、新規の相談を常に受け入れられる体制には至っておらず、現状ではマンパワーが不足しているため、新規の職員採用を行い、体制の整備を行っていく。以下、各事業について報告する。

(1) 悠ライフ 訪問型サービス 訪問介護事業 <老人居宅介護等事業>

□事業推進状況

1. 個人の尊厳を重視した良質なサービスの提供

常に利用者の人権を尊重し、利用者の立場に立った視点から適切な介護や援助の必要性に気づくことができるように努め、地域包括支援センター等との連携により、利用者が心身ともに充実した生活ができるように努めた。

2. 職員間の連携と情報の共有化

各利用者の現状や課題については、月1回のミーティングにおいてケース検討を丁寧に行い、日々の声掛けや会話の中から感じ取ったことを記録に丁寧に残すことを意識し、各職員の共通認識の中に良質なサービスの提供ができるように努めた。

3. 職員の資質向上のための教育、研修参加

毎回のテーマを決めて内部研修を行い、記録技術や基本的な接遇マナー、介護保険制度や障害者虐待防止法についての勉強会等を行った。外部研修については伝達により情報共有に努め、研修後は研修報告書にまとめることで職員の理解を促し、レベルアップを図った。

4. 地域ニーズへの速やかな対応と関係機関との連携

担当ケアマネージャーからの訪問の相談にはできる限り調整を行いながら対応し、訪問型サービスの速やかな開始など、関係機関と連携した取り組みを行うことで、利用者や家族からの信頼にもつながった。

（2）悠ライフ 居宅介護事業 <障害福祉サービス>

□ 事業推進状況

1. 利用者ニーズに即したサービスの提供

障がいをお持ちの利用者に対し、常に相手の立場に立った支援方法や声かけを行い、対象者の人権を尊重した対応が適切にできるように努めた。

2. 心身の状況、環境等の的確な把握

利用者的心身の状況や環境の変化に速やかに対応するとともに、定期的なモニタリングや担当者会にて状況確認を行いながら、日々の支援に活かせるように努めた。

3. 職員の資質の向上のための教育、研修参加

職員間において、学び合う姿勢を持ち、ケース検討時には全員が課題意識を持っての参加を促した。障がい者虐待についての法人全体研修や内部研修の機会を作り、自分たちの支援の確認を行いながら、障がい者支援への理解の醸成につなげた。

4. 地域ニーズに速やかに対応

相談支援事業所からの相談に対し、できる限り速やかに対応する事で関係機関との信頼関係を築くことにつながった。ただ、休日の対応が多くなり、サービス提供責任者の対応が増えているため、職員の育成やヘルパーの採用が課題となった。

（3）悠ライフ 同行援護事業 <障害福祉サービス>

□ 事業推進状況

1. 利用者ニーズに即したサービスの提供

通院の介助や移動などについて、視覚障がい者の特性に応じ、安心安全な誘導や声掛けにより、適切なサービスの提供を行った。利用者のペースに合わせた移動や気持ちの変化にも対応し、外出が負担とならないように丁寧な声掛けや誘導に努めた。

2. 心身の状況、環境等の的確な把握

訪問時の様子や細かな変化を見落とさず、何気ない会話にも心境の変化等を感じとりながら、心身の状況の把握に努めた。見えない中での生活の不自由さを少しでもカバーできるように本人の希望を聞き取りながら支援を行い、安心してサービスを利用していただけるように努めた。

3. 職員の資質の向上のための教育、研修参加

同行援護従事者の資格をヘルパー1名が取得し視覚障がい者の支援に活かすことにつながった。同行援護の有資格者が増えたことで、利用者のニーズに応じた外出支援の機会も増えることにつながった。今後もレベルアップのための研修に参加を促していく。

4. 地域ニーズへの速やかな対応

視覚障がいの方の外出支援については、1日をかけて遠方への外出支援が必要となることもあったが、なるべく利用者の希望に応じた支援ができるように努めた。

(4) 悠ライフ 移動支援事業 <地域活動支援事業>

□ 事業推進状況

今期の利用実績は2名と少人数ではあったが、必要時に利用者や家族の希望する移動支援が適切に提供できるように努めた。訪問時の様子や細かな変化を見落とさず、何気ない会話にも心境の変化等を感じとりながら、心身の状況の把握に努め、安心安全な移動に必要な支援を行った。

□ ヘルパーステーション悠ライフ事業運営状況

(平成30年3月31日現在)

①職員体制

職種	常勤	非常勤
管理者(悠々工房・GH悠兼任)	1	
サービス提供責任者	1	
訪問介護員	1	4
事務補助職員		1

②-1 訪問型サービス利用状況

		事業対象者	
		要支援1	要支援2
年間派遣回数	203	441	531

②-2 訪問介護事業利用状況

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
派遣回数	520	616	37	51	248	1472
延時間	521.5	627	37	51	124.5	1361

②-3 介護度別利用者数

介護度	無	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	5	4	6	3	4	0	1	1	24

③居宅介護事業 利用状況

利用者数	障がい種別		年間派遣回数	年間派遣時間
	身体障がい	知的障がい		
6	4	2	129	150.75

④同行援護事業 利用状況

利用者数	障がい種別		年間派遣回数	年間派遣時間
	身体障がい（視覚障害）			
4	4		48	250.5

障害福祉サービス

3. グループホーム悠 事業報告書

□ 事業推進状況

障がい者の共同生活の場としての機能を果たし、その方らしく地域での生活に必要な支援を受けながら、生活力を身につけ、自分でできることが増やしていくよう挑戦を促した。家庭的な雰囲気の中で、それぞれの望む生活がおくれるように生活全般にわたり支援を行った。利用者ニーズを聞き取る機会を作り、共同生活のルールの確認等話し合いを持ち、お互いに協力することで気持ち良く共同生活ができるように促した。利用者や職員との交流を図るための茶話会や食事会等を企画し、利用者の皆様にも大変喜んでいただいた。また、利用者と職員が共に地域の防災訓練に参加し、災害時の避難場所や避難方法の確認を行った。目

が見えにくい方を車椅子に誘導するなど、自分たちで協力して避難するという学習の機会とすることができた。

体験的な利用から、利用継続となった方が増えたことで6名の定員を満たすことになり、事業収入の安定にもつながった。只、これまで体験利用を受け入れていた居室が満室となり、希望に応えられない状況となったことで、相談支援事業所からの問い合わせもあり、将来に向けて第二のグループホームの必要性についても今後の検討としていきたい。

1. 安心して生活できる場所づくり

季節に応じた食材、温かい食事や栄養のバランス、利用者の皆さんのが嗜好を考えて、家庭的な食事を提供した。居室の掃除や片付けなど必要に応じて世話を人が手伝いながら、気持ち良く安心して過ごせる場所作りに努めた。

2. 利用者の主体性を重視したサービスの提供

共同生活に必要なルールの理解を促し、身の回りのできることは自分でできるように分かりやすく伝えていくことを繰り返しながら、自主性を伸ばし、生活力を身につけられるよう支援を行った。

3. 日中活動事業所や関係機関との連携

生活の様子や気になる点については必要に応じて、通所事業所に連絡を行い、情報を共有することで、支援に活かすように連携を図った。相談支援事業所のモニタリングや担当者会においては、本人の頑張りを認める声掛けを意識し、リラックスした雰囲気作りを心がけた。

4. 見学者や体験的な利用の受け入れ

相談支援事業所を通じての見学者や体験利用の希望者は積極的に受け入れを行った。その結果、6名の定員を確保できたことで収入の安定につながった。

□ グループホーム悠 事業運営状況

(平成30年3月31日現在)

①職 員 体 制

職 種	常 勤	非常勤
管 理 者 (悠々工房、悠ライフ兼務)	1	
サービス管理責任者 (管理者兼務)	1	
世 話 人		4

② 利用者の年代別状況 (男性6名)

20代	30代	40代	50代	60代
1	1	1	1	2

③ 障がい分類

障がい種別	知的障がい	精神障がい	身体障がい	計
利用者数	5	0	1	6

④ 見学者 4組 体験利用 2名

4. 悠々サポートセンター事業報告書 (自主事業)

法人内事業所において、個別面談やモニタリング、定期ミーティングや研修会などを計画実施した。また、相談支援事業所の担当者会やモニタリング、悠々工房家族会、各関係団体等に必要に応じて開放した。

外部使用団体など	使用目的
門川町手をつなぐ育成会	定例会 総会
門川町障害者連絡協議会	役員会 監査
悠々工房家族会	役員会
視覚障害者福祉会	役員会
学びの会	勉強会
あさひ相談支援事業所そーれ	担当者会 モニタリング
相談支援事業所しらはま	担当者会 モニタリング
相談支援事業所ゆうあい	担当者会 モニタリング

○決算状況

1) 貸借対照表

平成 30 年 3 月 31 日現在

資産の部		負債及び純資産の部	
流動資産計	57,725,971	流動負債計	5,669,178
固定資産計	130,580,444	固定負債計	1,176,612
		負債の部合計	6,845,790
		基本金	10,190,000
		国庫補助金等特別積立金	67,972,000
		その他積立金	53,100,000
		次期繰越活動収支差額	50,198,625
		純資産の部合計	181,460,625

資産の部合計	188,306,415	負債及び純資産の合計	188,306,415
--------	-------------	------------	-------------

2) 資金収支計算書

支出の部		収入の部	
科目名	決算額	科目名	決算額
就労支援事業支出	7,687,154	就労支援事業収入	7,729,103
福祉事業活動支出	63,283,435	福祉事業活動収入	62,889,346
施設整備等支出	4,982,040	施設整備等収入	0
その他の活動支出	3,565,809	その他の活動収入	9,409,402
資金支出合計	79,518,438	資金収入合計	80,027,851
当期資金収支差額	509,413		
前期末支払資金残高	52,380,682		
当期末支払資金残高	52,890,095		

3) 事業活動計算書

勘定科目	法人合算決算額	拠点区分			グループホーム 悠
		悠々工房	悠ライフ		
就労支援事業活動収益	7,729,445	7,729,445			
就労支援事業費用	8,057,830	8,057,830			
サービス活動収益	61,831,186	46,128,419	9,913,587	5,789,180	
サービス活動費用	64,369,314	51,032,079	8,587,035	4,750,200	
サービス活動外収益	1,077,839	1,016,249	61,537	53	
特別収益計	3,400,000	2,300,000	1,100,000	0	
特別費用計	3,400,000	0	2,400,000	1,000,000	
その他の積立金積立額	0	0	0	0	
当期活動増減差額	△1,788,674	△1,915,796	88,089	39,033	
当期末繰越活動増減差額	44,198,625	31,615,266	5,239,433	7,343,926	

4) 財産目録

1 資産の部	
I. 流動資産	
(内 訳)	
(1) 現 金	7 5, 8 5 4
(2) 普通預金	4 6, 1 1 3, 3 1 1
(3) 事業未収金	1 0, 5 1 9, 8 4 8
(4) 原材料	4 7 8, 6 9 8
(5) 未収金	8 7, 8 0 4
(6) 立替金	0
(7) 前払費用	1 0 9, 7 7 0
II. 固定資産	
(内 訳)	
1. 基本財産	
・建 物	6 2, 4 0 8, 0 4 2
2. その他の固定資産	
(1) 建物	6, 7 8 4, 9 8 6
(2) 建物付属設備	
(3) 構築物	2 0 2, 7 0 0
(4) 機械及び装置	1, 2 3 5, 1 1 9
(5) 車両運搬具	4
(6) 器具及び備品	5, 1 8 8, 8 9 1
(7) 退職給付引当資産	1, 1 7 6, 6 1 2
(8) 各種積立金	5 3, 1 0 0, 0 0 0
(9) その他の固定資産	4 8 4, 0 9 0
資産の部合計	<u>1 8 7, 9 6 5, 7 2 9</u>
2 負債の部	
III. 流動負債	
(内 訳)	
(1) 事業未払金	2, 8 1 9, 7 0 9
(2) 預り金	1 1 6, 7 8 3
(3) 前受金	1, 0 8 0, 0 0 0
(4) 賞与引当金	1, 3 1 2, 0 0 0
IV. 固定負債	
・退職金給与引当金	1, 1 7 6, 6 1 2
負債の部合計	<u>6, 5 0 5, 1 0 4</u>
3 差引純資産	<u>1 8 1, 4 6 0, 6 2 5</u>